

1 日 時 令和8年1月26日(月)第5校時

2 学 級 1年B組(男子21名、女子15名、計36名) 1年B組教室

3 単 元 名 歴史的分野 B 近世までの日本とアジア (2) 中世の日本

4 単元目標

(1) 中世に日本の大きな流れを、東アジア世界とのかかわりを背景に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 [知識及び技能]

(2) 中世の日本に関わる事象の意味や意義、伝統や文化の特色、中世の時代観を、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、エンパシーを働かせて多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 [思考力、判断力、表現力等]

(3) 中世の日本に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に「天皇中心の時代よりよい時代になったと言えるだろうか」という課題を主体的に追究しようとする態度を養う。 [学びに向かう力、人間性等]

[学びに向かう力、人間性等]

5 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 鎌倉幕府の成立、ユーラシアの変化の中で起こった元寇などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったことを理解している。 南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接なかかわりが見られたことを理解している。 農業などの諸産業の発達、機内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 中世の日本について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら「天皇中心の時代よりよい時代になったと言えるだろうか」という課題を追究しようとしている。 学習を振り返るとともに、よりよい社会の実現を視野に入れた次の学習へのつながりを見いだそうとしている。

6 単元観

本単元は、歴史的分野の大項目Bうち中項目(2)中世の日本を扱う。中学1年生にとっての歴史の学習

は、現代から遠い時代を扱う場合が多く、当時の時代の学習に終始してしまうことが多い。本校社会科の研究テーマ「主体的に社会に参加できる資質・能力の育成」に向け、この単元をどう位置付けるか、教材となる中世の時代についての「観」と、今年度重点的に研究を行っている「エンパシーを働かせた考察」の視点から、単元構想を行った。

(1) 時代観

日本における「中世」という時代については、「武士による政治が行われた時代」と捉えられることが多い。あるいは、古代・中世・近世・近代・現代からなる時代区分自体に馴染みがなく、鎌倉時代・室町時代といったより狭義の時代区分が記憶に残っている人も多い。そのような状況の人が、「中世」について想起しようとすると「近世」との違いや境が不明瞭になりやすい。つまり、鎌倉時代から室町時代の期間と江戸時代の期間とで、どちらも同じ「武士による政治が行われた時代」として捉えてしまい、区分し難くなってしまっている。

この現状に対し、歴史学的にも、「よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う」という中学校社会科の目標からも、日本の「古代と中世の違い」、「中世と近世の違い」を生徒に実感させることが必要だと考える。

日本における古代とは、天皇中心の中央集権体制が整えられた時代である。公的な制度の中で展開した社会の動きに対し、中世では、各地の武士団が独自の権力と組織をもって支配を行うようになっていく過程が見られる。また、土地制度や産業の視点から見ても、古代には見られなかった中世の特徴が見られる。民衆に目を向けても、古代よりも、団結して抵抗する、為政者になるといった機会をもつことのできる時代へと変容していった。しかし、そういった地方や民衆の成長が進んだことで、日本は戦乱の世を迎えることになった。

一方で近世は、同じ武家政権でありながらも、各地の大名と連立という形をとりつつ、徳川家の中央集権的な支配が確立できた時代である。地方や民衆は、平和な時代を約束されつつも、再び強い封建制度の中を生きていくことになる。中世に成しえなかった武家政権の確立のための条件を考えるには、武士にだけ注目するのではなく、依然大きな権力をもっていた朝廷や公家、民衆の支持を受けて力をもった仏教勢力、そして為政者を左右する存在になっていった民衆にも注目しなければならない。近世の土台を築き上げた織田や豊臣の政策を見ていっても、これら立場を統治下に置こうとしていたことに気付くことができる。そういった近世の特徴を理解していくためにも、中世の学習では、武士だけでなく、朝廷や公家、仏教勢力、民衆の視点から時代の変化を見つめることが求められる。

(2) エンパシーを働かせた考察の手立て

中世に限らず、歴史の学習では、為政者などが「強者」で、民衆が「弱者」だと捉えてしまうことがある。現代の私たちの主観的な「かわいそう」という価値観で、当時の人々を見て、彼らの判断や行動を理解したつもりになってしまう。この思考過程は、同情や思いやりといった道徳的な価値のあるシンパシーではあるが、エンパシーとは言えない。「味方になってあげる方がよい」と感じた側に立つことを正義とし、「味方にならない方がよい」と感じた側を悪とする考え方に繋がり兼ねない。こういった見方・考え方で社会を見て判断をしていくことが、今日の人権問題などにも繋がっていると考える。特に、中世における民衆の捉え方は、注意を払わなければならない。先に述べたように、中世の後半には、民衆を上手に扱えなければ政治が上手くいかなくなるという事例がいくつも出てきている。民衆の影響力は為政者をも左右する程、大きいものであった。黒澤明監督の『七人の侍』は、1586年の武士と百姓を描いた作品だが、劇を締めくくる「勝ったのはあの百姓たちだ、わたちではない」という台詞は、まさにこの時代の民衆の強かさを表しているように思える。

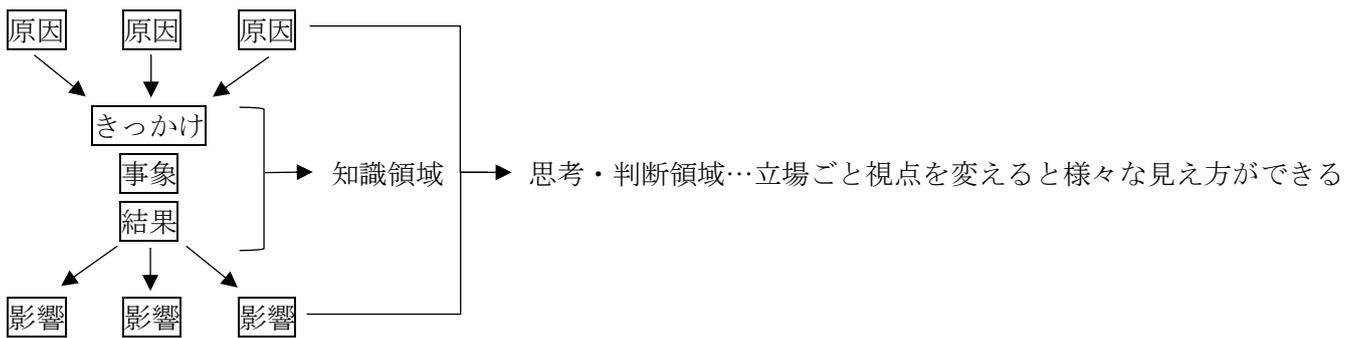
先に述べたように、中世という時代を、古代との比較しながら見ていく上では、武士だけでなく朝廷や公家、仏教勢力、民衆の立場に立って考察をしていくことが必要である。この学習過程に求められるのがエンパシーを働かせた考察である。それぞれの立場を取り巻く環境や状況を正しく理解し、その上で、その人物の立場に立って考えていく思考する力を育む必要があるだろう。単元構想、発問、資料を工夫し、生徒が様々な立場の人の視点に立って時代の変化を見つめられる授業デザインをしていく。

(3) 単元構想について

中学校における歴史学習の場では、生徒から「どこまで覚える必要があるか」という質問を受けることがある。これは、知識の習得に重点を置いてきた時代の社会科教育の名残である。しかし、同時に、今日行われている思考・判断の授業が、生徒の理解を混乱させている表れとも捉えることができる。歴史的事象は、過去に起こった出来事であり、その因果関係も変えられないものである。それらを学ぶ過程で、生徒に選択を委ねられる場面があることは、返って生徒の学習を混乱させかねない。そこで、改めて、歴史的な事象を学習する上で、どこまでが知識として学ぶべき領域なのか、どこまでが思考・判断する場面の領域なのかを再考したい。

知識として学ぶべき領域としては、その出来事そのものだけでなく、そのきっかけと結果も併せて理解する必要がある。この領域については、資料の読み取り活動を取り入れながらも、なるべくシンプルに理解できるようにさせたい。

一方で、きっかけとなる出来事の背景には様々な原因となる事象が存在し、結果の先には様々な影響が事象として現れる。これら原因や影響については、立場によって見え方も変わるため、じっくりとエンパシーを働かせる時間を設けることが大切になる。また、教師が一方的に教え込むのではなく、生徒と教師とで語り合いながら歴史観を擦り合わせていくことが必要になる。この学習過程に、パブリックヒストリーという学習方法を取り入れて授業を行いたいと考えている。この領域までを基本的な知識として囲ってしまうと、「覚えなくてはならないことが多い」と、歴史的学習に苦手意識をもつ生徒が生まれてしまう。基本的な知識を学ぶ場面と、原因や影響を思考・判断する場面を分け、立体的な学習を行うことのできる単元構想にしていきたい。



また、単元の構想にあたっては、中項目を一つのまとまりとしつつも、それらを細かな「次」に分けることが求められている。本単元についても「既習事項を振り返り、次の時代を見通す」、「武家政治の広がりを見つめる」、「武家政治の展開を見つめる」、「中世を大観する」の4次に分けて構想した。特に、「武家政治の広がり」と「武家政治の展開」については、歴史の大きな流れや基本的な知識を大まかに理解する時間をとった上で、時代の変化をそれぞれの立場から見つめる時間を設けた。

本単元では、「中世は、天皇中心の時代よりよい時代になったと言えるだろうか」という単元を貫く問を設けた。それぞれの立場から時代の変化を見つめた時間が、最終的にこの問いを考える材料となるように、追究用紙もポートフォリオ形式をとっている。

資料については、一般的に有名な絵画資料、文献資料、統計資料に加え、地域教材も扱いたいと考えている。地域の教材からは、空間的な実感を得やすい。特に民衆の立場に立って考えていく際に、なるべく地域の当時の状況を分析できるようにさせることで、よりエンパシーを働かせられるのではないかと考えている。なお、本校の学区は、東は静岡市、西は袋井市にまで広がっている。各市町の市史や町史からも資料を引用したい。資料や地名などに馴染みのある生徒とない生徒を分けることになるが、だからこそ、生徒間の対話がより深いものになることが考えられる。

7 単元計画

次	時	○学習活動 ・生徒の思考	★エンパシーを働かせる手立て、発問	評価の観点			□評価の観点
				知	思	態	
1 既習事項を振り返り、次の時代を見通す	第1時	○時期の表し方や時代区分を復習する。 【学習課題】古代とはどんな時代だったか、振り返ろう。 ○人物を中心に、小学校の学習を振り返る。 【単元課題】中世は、天皇中心の時代よりよい時代になったと言えるだろうか。 ○問いに対する予想を立て、解決に向けて調べる必要のあることを考える。 【生徒の反応】 ・戦いの多い時代になったから、よりよい時代になったとは言えないと思う。 ・中世と聞くと、武士が政治をした時代としか答えられないから、この先の学習で時代の変化を考えていきたい。	★どんな立場や身分があったかな。 ★誰から見た「よりよい」を考えているのか。				□見通しをもって学習に取り組めるよう、既習事項を基に、問いに対する予想を立て、疑問点をまとめている。
	第2時	【学習課題】武士とはどんな人たちだろう。 ○2枚の絵画から武士の役割を読み取る。 ○武士のルーツは中央と地方のどちらかを予想した上で、資料から棟梁と各地の武士団の違いを読み取る。 【生徒の反応】 ・都では、警護役としての武士がいる。 ・地方では、屋敷の主を守る武士がいる。 ・土地を守ろうと力をつけた各地の武士と、それらをまとめる棟梁がいたんだね。 ・今までは都が一番偉かったけど、どうやら地方でも力をつけた人が出てきたぞ。	★それぞれ、どんな思いで、守っているのだろう。				□資料を読み取り、武士には天皇などがルーツの棟梁と、地方で生まれた武士団がいたことを理解している。
2 武家政治の広がり	第3・4時	○紙芝居を見て、武家政治が広がっていく過程を大まかに知る。 【学習課題】平清盛、源頼朝、北条氏のうち、武士の政治は誰から始まったと言えるだろう。 ○3人の身分や出身、政策を比較する。 【生徒の反応】 ・平清盛は、武力で政権を握った人物だが、身分や行ったことは藤原氏と似ている。 ・源頼朝は、都から離れて朝廷から独立した政治を始めたが、源氏の血筋や将軍という	★それぞれ、何を後ろ盾に、人々を支配するようになったのかな。				□院政、源平合戦、鎌倉幕府の成立、承久の乱を中心に、歴史の大きな流れを理解している。 □3人の武士

を見つめる	<p>身分は、天皇ありきのもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北条氏は、天皇や朝廷とは関係ない伊豆の豪族という身分で西日本まで支配することができたが、それは将軍という立場があつてのこと。 ・最終的には、天皇中心ではなく、武士中心の政治が完成したんだ。 			を比較し、武家政治の広がりをも面的に考察し、表現している。
第5時	<p>【武士の立場から時代を見る】</p> <p>○守護、地頭、封建制度、御成敗式目について確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【学習課題】あなたが地頭なら、農民からの年貢の取り立てを厳しくするか。</p> </div> <p>○封建制度や分割相続と関連付け、自分たちの生活を守ることでできる農民との関わり方を考える。</p> <p>【生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地を増やすために戦いで活躍したい。なので農民には農業に集中してもらうべき。 ・武士団は一つの会社のように、御家人は家族のためにも活躍して土地を増やしていく必要がある。楽な人生じゃないんだな。 	<p>★御家人は何に集中をしたいのだろうか。</p> <p>★なぜ修行や訓練に集中したいのだろうか。</p>	●	<p>□封建制度や分割相続と関連付け、御家人の生活の様子や課題を考察している。</p>
第6時	<p>【朝廷や公家の立場から時代を見る】</p> <p>○承久の乱とその後の対応について確認し、これにまつわる地域の史跡に触れる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【学習課題】あなたが公家なら、この先どうやって生きていくか。</p> </div> <p>○既習事項を基に、武士の支配が強まる中で公家の生活の維持向上を考える。</p> <p>【生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地頭を悪者にして、農民が自分に多く年貢を納めるようにさせる。 ・家柄や権力を生かして、他の身分の後ろ盾をして、収入を増やす。 ・公家はただ弱者になっていったのではなく、一族のために工夫をして力を保とうとしたんだな。 	<p>★葉室宗行はどんな思いで辞世の句を詠んだだろう。</p> <p>★公家であっても、収入を確保しなければならぬのはなぜだろうか。</p>	●	<p>□主題図から、承久の乱後の変化を読み取っている。</p> <p>□学習を振り返り、公家の視点から課題解決に向けて案を考えようとしている。</p>
第7時	<p>【民衆の立場から時代を見る】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【学習課題】民衆の生活は苦しくなったと言えるか。</p> </div> <p>○二重支配や諸産業の発達と関連付け、古代の様子と比較しながら、農民の生活の変化を評価する。</p> <p>【生徒の反応】</p>	<p>★農民はどんな目的で起訴状を書いたのかな。</p> <p>★市で物を売ること</p>	●	<p>□二重支配や諸産業の発達と関連付け、古代の様子と比較して、民衆</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・領主と地頭の二重支配になったので、より苦しくなったのでは。 ・生産方法が向上したり、農業以外の方法で金を稼ぐこともできたりしたので、生活に余裕ができたのでは。 ・古代よりも、その土地で生きていく工夫や挑戦が増えたように見える。 	<p>ができるなら、あなたが農民ならどんな工夫をするかな。</p>			<p>の生活の変化について、根拠位をもって評価している。</p>	
	第8時	<p>【仏教勢力の立場から時代を見る】</p> <p>○新しい宗派の特徴について確認し、当時の志太の多くが寺の荘園だったに触れる。</p> <p>【学習課題】 地方でも仏教勢力が力をつけたのはなぜだろう。</p> <p>○信仰していた身分や座の仕組みと関連付け、仏教勢力が成長した背景を多角的に捉える。</p> <p>【生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦いが増えて不安を感じていた民衆にとって、簡単な方法の教えだったから。 ・後ろ盾を得たい商工業からの収入もあったから。 ・武士にとって、公家や寺が権力をもつことは課題だったかもしれない。 	<p>★新しい宗派が民衆に支持されたのはなぜかな。</p> <p>★商工業をしていた人たちはなぜ寺に金を納めたのだろう。</p>	●		<p>□信仰していた身分や座の仕組みと関連付け、仏教勢力が成長した背景を多角的に考察している。</p>	
3	武家政治の展開を見つめる	第9時	<p>○13世紀のユーラシア大陸の変化を踏まえた背景、元寇の様子、元寇後の幕府の対応について確認する。</p> <p>【学習課題】 御家人として、元寇後の幕府の対応にどう物申すか。</p> <p>○既習事項や御家人の家計状況を基に、幕府への提言を考える。</p> <p>【生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・御恩としての土地をもらえなかったり、金を借りることができなかったりする状況は、御家人の生活の危機なんだな。 	<p>★御家人はなぜ土地が増やさなければならなかったのか。</p> <p>★借金の帳消しは、御家人にとってメリットがあるか。</p>	●	●	<p>□ユーラシアの変化の中で元寇が起こったことを理解している。</p> <p>□学習を振り返り、御家人の感じている不満を言語化しようとしている。</p>
		第10時	<p>○紙芝居を見て、武家政治が広がっていく過程を大まかに知る。</p> <p>【学習課題】 なぜ後醍醐天皇の理想とする国は実現されなかったのだろう。</p> <p>○小集団で分担して3つの歴史書を読み取り、当時の社会情勢や武士の行動を読み取る。</p>	<p>★後醍醐天皇の目的は何だろう。</p> <p>★武士や民衆はどんな思いをもっていたのだろう。</p>	●		<p>□建武の新政、南北朝の争乱と統一、室町幕府の成立を中心に、歴史の大きな流れを理解</p>

	<p>【生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 倒幕できたとはいえ、東日本の武士を支配しきれなかった。 ・ 武士の生活は御恩によって維持されていたので、武士の生活を今後も保障する方法が必要だった。 ・ 人々が不安な思いをしている中、命令がすぐに変わっていき、都が混乱した。 				<p>している。</p> <p><input type="checkbox"/> 3つの歴史書から、当時の社会状況を読み取っている。</p>
第11・12時	<p>【政治や外交から時代を見る】</p> <p>○ 室町幕府や日明貿易についての諸資料を読み取り、足利義満が強大な支配力をもったことを理解する。</p> <p>【学習課題】 新しい統治の仕方は、平和につながるだろうか。</p> <p>○ 統治の仕方について、鎌倉幕府と室町幕府を比較する。</p> <p>【生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 義満自身は強い力をもったけど、地方の守護が力をつける仕組みだ。 ・ 執権と比べ、管領は3家で交代して起こないので、混乱や対立が起きそう。 ・ 結局、応仁の乱をきっかけに戦国時代を迎えたんだ。 	<p>★あなたが武士なら義満に従うか。足利家には従うか。</p> <p>★あなたが管領や守護に任命されたら、どんなことを考えるか。</p>	●	●	<p><input type="checkbox"/> 東アジアとの密接なかかわりの中で、足利義満が強大な支配力をもったことを理解している。</p> <p><input type="checkbox"/> 2つの幕府の仕組みを比較し、戦乱の世に向かった背景を考察している。</p>
第13・14時 本時	<p>【産業や民衆の生活から時代を見る】</p> <p>○ 諸産業の発達や村の自治に関する資料、一揆の記録を読み取り、民衆が団結して抵抗を試みるようになったことを理解する。</p> <p>【学習課題】 民衆からすると、よりよい時代になったと言えるか。</p> <p>○ 既習事項を基に、古代の生活と比較し、時代背景や産業生活の変化を基に、民衆から見た中世の時代観を考える。</p> <p>【生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 古代の頃、人々は戸籍を偽ったり逃げ出したりしていた。それと比べると、団結して支配者に抵抗できるようになったから。 ・ 古代よりも戦いが増えたので、足軽として駆り出されて命の危険が高まるし、自分の村が戦場にでもなったら、今までの苦労が水の泡。 	<p>★当時の民衆にとっての「よりよい状態」って何だったんだろう。</p>	●	●	<p><input type="checkbox"/> 資料を読み取り、民衆が団結して抵抗を試みるようになったことを理解している。</p> <p><input type="checkbox"/> 古代の生活と比較し、時代背景や産業生活の変化を基に、民衆から見た中世の時代観を考えている。</p>

4	第15時	<p>○戦国時代の静岡県の勢力図を見る。</p> <p>【学習課題】 今川義元の政治は上手くいっていただろうか。</p> <p>○今川義元の政策を基に、武士の政治が上手くいくための条件を考える。</p> <p>【生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分国法で家臣の反乱を防ごうとしている。 ・寄親・寄子制度や目安箱は、民衆を敵に回さない良い方法だった。 ・公家や寺社の力は依然として強いままだから、上手くいかないのでは。 	<p>★武士からすると、どんな存在が政治をする上での障害となりうるか。</p>	●	<p>□今川義元の政策を基に、武士の政治が上手くいくための条件を考えている。</p>
	第16時	<p>○時代を大観しまとめる方法を復習する。</p> <p>○鎌倉文化と室町文化の代表的な作品や建築を知る。</p> <p>【学習課題】 文化の面で、中世という時代を説明しよう。</p> <p>○代表的な作品や建築から一つ選び、古代と比較し、社会の変化と関連付けて説明し合う。</p> <p>【生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武士が政治の中心になったことで、金剛力士像のような、力強い印象の像が作られたんだね。 	<p>★どんな特色が、当時の人々の心を掴んだのだろうか。</p>	●	<p>□鎌倉文化と室町文化の特色を、古代と比較し、社会の変化と関連付けて説明している。</p>
	中世を大観する 第17・18時	<p>【単元課題】 中世は、天皇中心の時代よりよい時代になったと言えるだろうか。</p> <p>○これまでの学習を振り返り、古代と比較して、中世の時代観について討議する。</p> <p>【学習課題】 中世を学習してきて、あなたの考える「よりよい社会」の在り方とは。</p> <p>○単元の学習を振り返り、自分なりの考えをレポートにまとめる。</p> <p>【生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古代よりも、様々な立場の人が成長、活躍できる時代になっていった。 ・戦いが多い時代ということは、それだけ亡くなる人も多いということ。 ・様々な立場の人が成長でき、かつ平和な時代にするには、どんなことが大切だろう。 	<p>★これまで誰から見た「よりよい」を考えてきたか。</p> <p>★それぞれの立場にとっての「よりよい」状態とは。</p>	● ●	<p>□古代と比較して、中世の時代観を多面的・多角的に考察している。</p> <p>□単元の学習を振り返るとともに、よりよい社会に向けて、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。</p>

9 本時について

(1) 本時の目標

戦乱の時代を迎えたこと、諸産業の発達や民衆の生活の変化を学習してきた生徒が、古代の生活と比較する活動を通して、時代背景や産業生活の変化を基に、民衆から見た中世の時代観を考える。〔思考・判断・表現〕

(2) 本時の授業過程 (14/18)

形態 時間	学習活動 (○教師の発問 ・生徒の発言や思い)	◎評価 ・留意点
全体 (5)	<p>【学習課題】民衆からすると、よりよい時代になったと言えるか。</p>	
小集団 ↑↓ 全体 (40)	<p>○前時に考えた個人の意見を他者に伝えよう。</p> <p>○誰かの発表した意見について、小集団で話し合おう。</p> <p>【言える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農具や農業方法が発達し、生産量が上がったから。 ・商工業など、他の産業で活躍する機会が増えたから。 ・自治を行うことができ、支配者を倒せば、国を自分たちで動かすことだってできる。 ・古代の頃、人々は戸籍を偽ったり逃げ出したりしていた。それと比べると、団結して支配者に抵抗できるようになったから。 <p>→○果たして産業の発展は、民衆の幸福につながっていたのかな。</p> <p>○民衆は、抵抗したり、支配者を倒したりした後はどうなりたかったのかな。</p> <p>○中世って、日本全体の人口が実は減っているんだよ。</p> <p>【言えない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二重支配だと、領主も地頭も自分たちの生活があるので、きっと民衆から多く年貢を取ろうと思う。 ・古代よりも戦いが増えたので、足軽として駆り出され、命の危険が高まるから。 ・自分の村が戦場にでもなったら、今までの苦労が水の泡。 ・仏教にすがっていたってことは、人々はやっぱり不安な思いがあったんじゃないか。 <p>→○民衆としては、支配者に対して、どんな狡いことができただろうか。</p> <p>○戦いに参加すれば、相手の土地から物を奪えるんじゃないかな。</p> <p>○本当に、古代より悪い状況、古代と同じ状況だったと言っているのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習してきたことを基に、時代観を共に創り上げる時間であることを確認する。 ・全体追究が始まると生徒の発表が止まらなくなることが予想されるため、機会を見て教師による切り返しや補助発問を行う。 ・追加の資料として、日本の人口推移のグラフを提示する。 ・追加の資料として、乱取りの様子を提示する。 <p>□時代背景や産業生活の変化を基に、民衆から見た中世の時代観を考えている。</p>
全体 (5)	<p>○当時の民衆にとっての「よりよい状態」って何だったんだろう。</p> <p>○民衆から見た中世って、どんな時代だったのかな。</p>	<p>〔思考・判断・表現〕</p>

前単元【律令制下の農民の暮らしの学習】

天皇中心の国にすることで、平和になるのか?

616~人々はどんな生活をしてた? あなははこの時代をどう生き抜く?

いつのことか
どう変わったか
違いや共通点は何か
どうつながるか
現在とどうつながるか

2:00

(1) 貴族...豊かな生活
(2) 人々...多かれが農民
口分田を与えられる
税を納める義務も与えられる

〈従う〉
・国司の振出しになる
・辛くも働いた方がよい
・唐64%、辛36%
・全うしていれば、いっかあ対される
・結婚して大切な存在がいれば、貞剣にかけられる
・かみざり縮めれば、子どもがいと食べる人が増える

〈たます〉
・収穫量を少く伝え、自分の分を増やす
・疑われる?
・天候のせいと言いつける
・おこなって脱税
・荒れたことによる、も納められた
・古い米を納める
・女性に税なしで、不満を吐く

〈奪う〉
・兵士のふりをして、ご飯を奪う←実親話?
・都の近く、物を奪う
・(貴族のために)奪う
・貧しい人は奪わない

〈逃げる〉
・九州に行くために朝鮮に逃げる
・船が必要? 受け入れてもらえる?
・米を貯めておいてプレゼント

〈住いころを変える〉
・都を九州の近くに引越す
・工賃を上げて貴族にしてもらう
・貴族と結婚←家柄?

〈反抗する〉
・税の立場にいてる里親をおどす

前単元【墾田永年私財法による社会の変化の学習】

天皇中心の国にすることで、平和になるのか?

618~朝廷はどんな法を出した?

A. 救われた
・持ては限られた土地→税を納めると自分の分が少い
・土地が増えれば、収穫する全休量が増える
→税以外の自分の取り分も増える
・貴族の土地で働かせてもらえば、お互いwin-win
↳戸籍上は「いない」ことになる→税を納めなくてよくなる
調子、租以外の税
△農民は貴族に納める必要がなくなる
△貴族優先

(1) 背景
・人口が増え、土地が不足
・逃げ出す農民もいた

(2) 743. 墾田永年私財法
この法で農民は救われた?
→国にとってはマケス→貴族の方が強くなる
私有地=荘園

B. 救われぬ
・土地をめぐる争い、起るかも
・土地が増えた分、3%の租がかかる
・高い身分の人の土地がさらに広くなり、貧富の差が広がる
・田んぼが増えると仕事も増える
みんなやせれば、一人あたりの取り分が少くなる
・貴族が土地を広げて、自分にはなく農民にやらせる
・国の土地ではなく、貴族の土地で働く農民が増える
→貴族は都に住んでいるので、一部の農民だけ
→天皇中心の公地公民でなくなる→天皇への反抗、内部抗争

本単元【第1時】

いつのことか
どう変わったか
違いや共通点は何か
どうつながるか
現在とどうつながるか

12/9~どんな時代から、どんな時代になっていた?

現代 ← 近代 ← 近世 ← 中世 ← 古代 ← 原始

政治 (天皇中心、公地公民)
人々の生活 (どんな立場があった?)
外国とのつながり (唐と交流 → 長安から長都)
文化 (仏教が各地に)

中央から派遣された支配者 (国司)
土地の支配者に従う (郡司) → 貴族の荘園で働く
税に苦しんで逃げる人生 (農民)
国司が自由に支配

中世は、天皇中心の時代よりよい時代になったと言えるだろうか?

本単元【第2時】

中世は、天皇中心の時代よりよい時代になったと言えるだろうか?

12/10 武士って、どんな人たち?

いつのことか
どう変わったか
違いや共通点は何か
どうつながるか
現在とどうつながるか

関係なく実力や才能がある人
公領(国の土地) 荘園(個人の土地)

〈都〉
えらい人を守る人
着ている服 → 上下関係が厳しい
身分が高い人ほど弓をもてない
低い人が武器を持って、えらい人を守る
武士には男性が多い
武器を持っている貴族...?
女性も守っている... 武士の家族?
国司みたいに、都から守る人が地方に派遣しても昇進できない
低い身分の人が地方にとばされる(その逆は難しい)

〈地方〉
屋敷の門番 → 刀や棒を持っている... 屋敷の真ん中にえらい人
農民とも関わっている
農民だけと武士...?
修業している(弓、杖) → 役番
物見やぶら
国司や荘園の持ち主
気に入られて都にも行く?
地方の人同士で高め合っていく(地方出身は都で下に見れる)

武士団
農民
生産する側
消費する側

棟梁
貴族

本単元【第3時】

中世は天皇中心の時代よりよい時代になったと言えるだろうか。

いつのことか 12/15~ 武士はどのようにして、政権を広げていた?~

どう変わったか (1) 1人目
院政... 天皇が引退後、上皇として政治
→ 1156. 保元平治の乱: 天皇派 vs 上皇派
1160. 平治の乱: 平氏 vs 源氏 → 平清盛

違いや共通点は何か

どうつながるか

現在とどうつながるか (2) 2人目
1180~85. 源平合戦: 源氏 vs 平氏 → 源頼朝 (征夷大将軍 鎌倉に幕府)
(3) 3人目
幕府政治: 将軍の補佐役(執権)が政治 → 北条義時
→ 1221. 承久の乱: 朝廷 vs 幕府

(4) 武士の政治は誰から始まったと言えるだろうか?

A. 平清盛 B. 源頼朝 C. 北条義時 & 政子

本単元【第4時】

中世は天皇中心の時代よりよい時代になったと言えるだろうか。 12/18 武士の政治は誰から始まったと言えるだろうか? ... 武士に対して天皇が逆えない

いつのことか A. 平清盛 ← 敵同士 → B. 源頼朝 C. 北条義時、政子

どう変わったか

違いや共通点は何か

どうつながるか

現在とどうつながるか

701 大化の改新

天皇中心の政治

△大政大臣(朝政を代行) ← 武士として初めて政権を握る
△平治の乱で勝たれたから
△あつて天皇の下での権力
△官がなくなった役職 → 武士が武士として扱った
△公家と同じ仕事
△戦いに勝った棟梁が政治
△武士の政治の一端 (つづかなし、しどろくろく、具材用鹿)

△平氏も源氏も、天皇の子孫(棟梁) → 天皇から抜けていない

△西日本は支配できていない
△守護と地頭を全国に置いた
△平氏とウライノミを倒した
△天皇に任命されているけど、独立している
△新しく仕組みをつくらせて武士をまとめる
△一般の人が天皇に従うか、武士に従うか
→ 各国の守護と土地の地頭に
△全国の武士を支配はできていない
△武士の政治の完成のギリギリまで (調理開始)
△あつてこうしようとしている

△西日本も最終的に支配
△武士による、武士のための政治
△承久の乱で味方した武士を西日本の守護、地頭に
△将軍はおかざりて、北条氏が幕府も地方も独占
△武士の政治完成のゴールテープを切った (ゴールが完成)
△仕組みは頼朝の続き
△天皇とは関係のない、伊豆のいなかの豪族 (完全な武士政治)

本単元【第5時】

中世は天皇中心の時代よりよい時代になったと言えるだろうか。 (3) 農民からの年貢の取り立てを... 西日本を支配した後は...?

いつのことか 12/19~ 武士にとって、よい時代になった?~

どう変わったか (1) 鎌倉時代
1185~ 守護、国ごと、地頭、土地ごと

違いや共通点は何か

どうつながるか

現在とどうつながるか

將軍
奉公 ↑ 御恩
御家人
(將軍に従う武士)

A. 厳しくする
功績を残せば、もともと豊かになる
→ 年貢をいざしめ減らさる
豊かになるとより強い、装備を充実させる
他の土地にも農民がいる
逃げても自分の土地はもてない

B. 優しくする
戦いは不定期、いつ起こるか分からない
→ 農民の不満がたまってしまう
農民が、いざと食糧をつけない → 武士も訓練できない
戦いに弱くなってしまふ
今までの関係が崩れてしまう
→ 逃げた(はず)、戸籍をいなくなる...
優しくしておいて、後から圧をかけて厳しくする
農民のモチベーションにつがる
地頭は領主に渡す → 地頭が力をつける。

武士の生活
... 豪華? 質素?
勝利や新しい土地
↓ 次の代の土地が減る (分割相続)

本単元【第6時】

中世は天皇中心の時代よりよい時代になったと言えるだろうか。 12/22~ 朝廷や公家がすると、よい時代になった?~

いつのことか (1) 1221. 承久の乱

どう変わったか

違いや共通点は何か

どうつながるか

現在とどうつながるか

朝廷 → 幕府

地頭を説得
お金をあげて味方につける
地頭に人々をまとめるように
自分が有利になるように

土地にあつた産業を発展
地収入を増やす
土地の使役や農法の効率化
農民の地頭より少ない年貢(農民を味方)...
農民の怒りの矛先は地頭へ

信頼が弱く、地頭を監視させる

家族のため、しどろくろくが強い

自衛武士に
他の公家と協力して、自分武士を訓練
朝廷にいても、今後勝てない
→ 裏切て幕府へ
朝廷を後ろ立てに、地頭を脅かす
国司に増税 → 糸が増える

本単元【第7時】

中世は天皇中心の時代よりよい時代になったと言えるだろうか? 1/7 人々の生活は苦しくなると言えるか?

いつのことか
どう変わったか
違いや共通点は何か
どうつながるか
現在とどうつながるか

A. 言える
まぜはん...米以外のものを入れてかき増している? ←
地頭も支配した後に 農民の訴えが出た
横取り ← 自由がなくなった
他の仕事をしようとしても上手いがない ←
稼げない人は年貢を納められぬこと ← 銭で年貢を納める →
地頭にも年貢を納めなければならぬ ←

B. 言えない
古代の食事も豪華にきている スマホなど
農業以外の仕事で成功する人も出てきた 観光
「島田...流水で農業しにくい」 魚、橋、川、越、宿、舟
農業にいい土地のもの、別の方法で納められる 川の整備
も一方の支配者のせいになれば、納める量を減らせることも
新しい農法や米以外の作物

本単元【第8時】

中世は天皇中心の時代よりよい時代になったと言えるだろうか? 1/9 地方でも、仏教勢力が力をつけたのはなぜ?

いつのことか
どう変わったか
違いや共通点は何か
どうつながるか
現在とどうつながるか

信者が増える → 荘園が増える → 収入が増える

誰でも気軽に かんたんにできる
寺に土地をあげる
「座」から寺に利益の一部を払う

二重支店に苦しい → 業にのりた
「おい、辛い、求むたい
物騒、不安」
強い寺を味方にしたい
利益を独占したい

戦い、自然災害、ききん → 農民、武士、商工業者

本単元【第9時】

中世は天皇中心の時代よりよい時代になったと言えるだろうか? 1/4 幕府政治の限界は?~

いつのことか
どう変わったか
違いや共通点は何か
どうつながるか
現在とどうつながるか

(1) 1300の世界
・モンゴル帝国(チギス・ハーン)
・ユーラシアの大枠を支配
(火薬、印刷) 技術、羅針盤を西に伝える
⇒ 元(ベン・ハーン)

(2) 元寇 北条時宗
(1274. 文永の役...博多に上陸
81. 弘安の役...防塁で上陸防く)

(3) その後の幕府の対応に物申そう
どう対応? ← どんな不満?
命かけて奉公
土地を豊かに生活苦しい
土地を売ったり買ったりする(借金)
貸した側は困るのでもう貸さない
⇒ もう借ることができない

守りだけ 御恩なし
新しい土地 → (土地をあげない)
なし

徳政令 (借金を帳消しする)

分室相続

本単元【第10時】

中世は天皇中心の時代よりよい時代になったと言えるだろうか? 1/6 後醍醐天皇はどんな国を目指した?~

いつのことか
どう変わったか
違いや共通点は何か
どうつながるか
現在とどうつながるか

(1) 1333. 新田義貞、足利尊氏らで倒幕
+ 新田義貞、足利尊氏らで倒幕

(2) 建武の新政
→ 36. 南朝(奈良) 36. 北朝(京都)
室町幕府
92. 南北朝統一 (足利義満)

平和 → (3) なぜ理想の国は実現しなかった?
*誰目線で書かれている?
1. 梅松論(朝廷)
・民衆に伝えようとしても、側近が正しく伝えない(民衆、朝廷、武士)
・「武士の政治を認めない」と伝えた、言っていることコロコロ変わる
2. 太平記(武士) 土地
・賞讃した武士への恩賞 → 役人にこぼれるなど不正
・公正に、土地を分けて欲しい、
3. 二条河原踏書(民衆)
・都の治安(強盗や嘘の情報) → 混乱 本当は天皇のせい?
・民衆は治安良く欲しい、正しい情報が欲しい、

本単元【第11時】

中世は天皇中心の時代よりよい時代になったと言えるだろうか。

いつのことか 1/21 ~ 室町時代ってどんな時代? ~

どう変わったか <東アジア> 元 → 明

違いや共通点は何か 高麗 → 朝鮮

どうつながるか 琉球 ... 中継貿易

現在とどうつながるか 蝦夷地 ... アヌ民族

正式な船と区別

足利義満が強大な支配力をもてたのはなぜ? *逆せない

「日本国王」としての印

朝貢

日明貿易 (勘合貿易) *利益を独占

補佐役は三氏交代 (管領) *補佐役の海蔵と防く

各地の守護の支配権を強める (守護大名)

国内

南北朝の内乱もめたばかり

貧しい武士や民衆

力をもち続ける寺社や公家

将軍

大政大臣

出家して法皇

寺社や公家も支配 (文化も融合)

*不満は大名へ向ける

本単元【第12時】

中世は天皇中心の時代よりよい時代になったと言えるだろうか。

いつのことか 1/21 室町幕府のまとめ方は、平和 につなげると...

どう変わったか A <言える>

違いや共通点は何か 農民がらすと、守護大名の支配のみ

どうつながるか → 二重支配解消、年貢が減る

現在とどうつながるか 農民と守護大名が近くなる ... 民衆の不満 (困)

幕府と武士の関係が弱れる

→ 武士の幕府への不満 (困)

管領は三氏交代

守護の支配力 (困)

中央 幕府の力 (困)

地方分権 各地 大名の力 (困)

1467 応仁の乱 (京都)

焼野原

各地で戦い

戦国時代

突如になる 戦国大名

下克上

B <言えない>

守護大名の支配 → 民衆が言いやめくなる

→ 土地の良し悪しで守護大名が反乱するが

自分の領民から多く年貢を取る大名も出るが

→ 民衆の不満

義満には不満言えぬけれど義満以降は...

公家や仏教勢力からの信頼

中国の後進だて

管領を交代で行う

→ 政治が変りやすい!

跡継ぎ争い

今も言えぬ不満

本単元【第13時】

中世は天皇中心の時代よりよい時代になったと言えるだろうか。

いつのことか 1/23 支配される側の民衆が一揆を起すようになった背景は?

どう変わったか 目的のため、集団で団結して行う行動

違いや共通点は何か (1) 畿内から広がる

どうつながるか 1428 正長の土一揆

現在とどうつながるか 85 山城の国一揆

88 加賀の一向一揆

(2) 産業の発達

農業

手工業 ... 各地で特産物

馬宿 車宿 問丸 土倉 など

(3) 自治組織

惣 (村)

町衆 (町)

町 (村)

民衆がらすとよりよい 時代になったと言える?

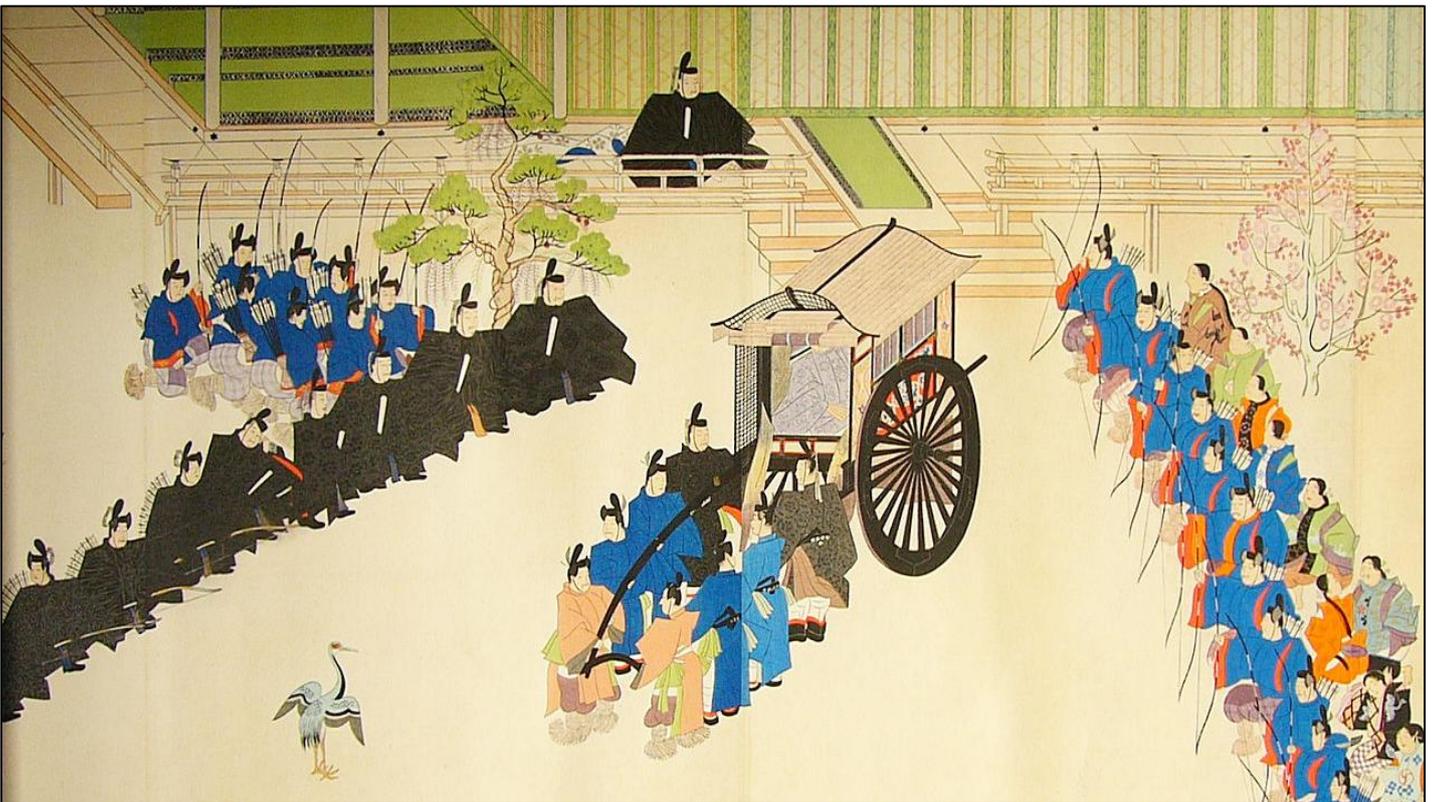
A 言える 迷

B 言えない

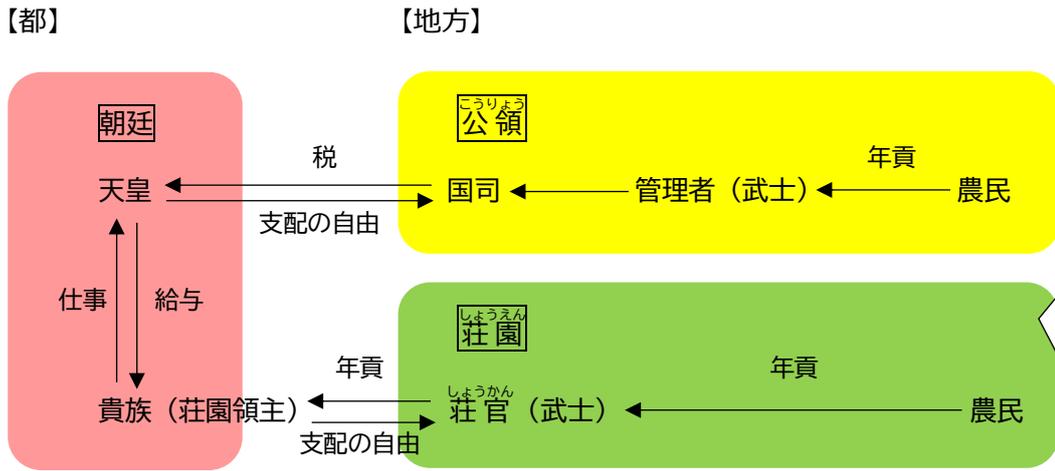
1. 地方の様子



2. 都の様子



3. 平安時代の後半の「土地」



力のある寺（仏教）や神社（神道）が荘園をもつこともあった。

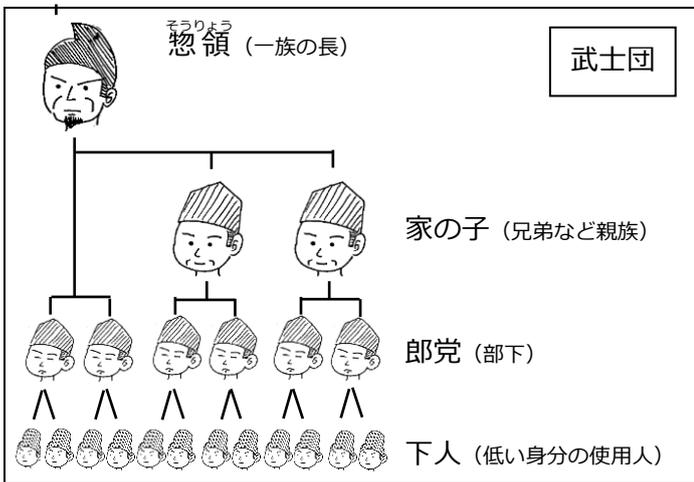
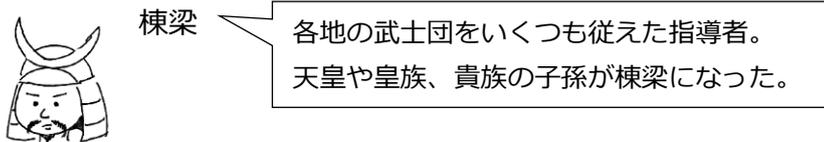


↑こんな武士も…

「税」と「年貢」の違いって？

- ・税 …国の運営のために納めるもの。平安時代の後期は、土地（公領）に課せられた。
- ・年貢…土地に住ませてもらう代わりとして、土地の持ち主（領主）に納めるもの。

4. 棟梁に従った「武士団」

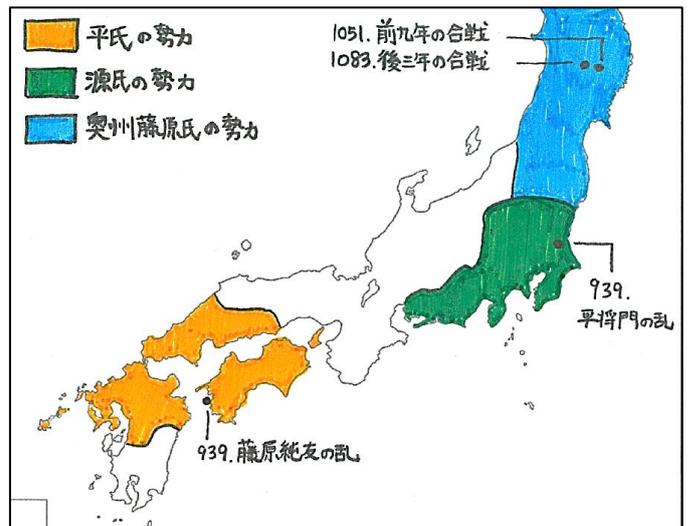


【各地の武士団を従えた棟梁】

- ・平氏 … 桓武天皇の子孫の一族
- ・源氏 … 清和天皇の子孫の一族
- ・奥州藤原氏 … 藤原氏の子孫の一族

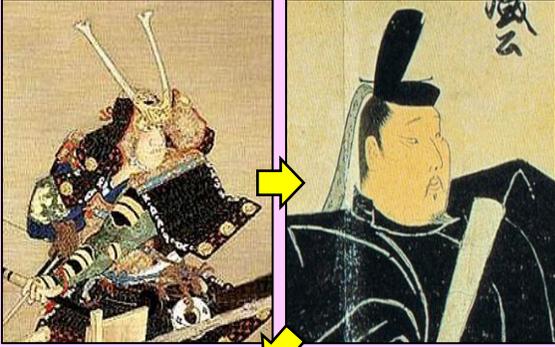
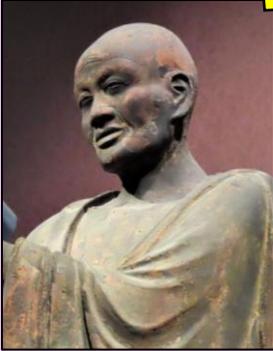
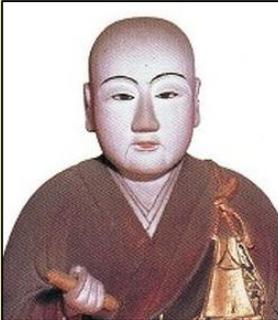
朝廷より命令を受け、各地の反乱や戦いを鎮めた。

5. 反乱や戦いが起こった場所と勢力図

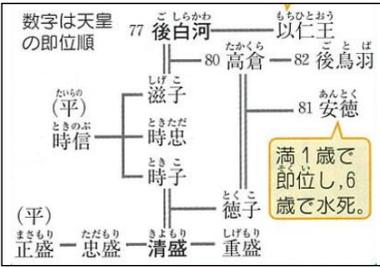


藤原純友
…藤原氏の子孫

平将門
…藤原氏の子孫

人物と描かれ方	<p>平清盛</p>  <p>鎌倉時代に書かれた『十訓抄』では、穏やかで、身分関係なく、接する相手を大切に、礼儀正しい姿だったと書かれている。</p> 	<p>源頼朝</p> <p>【昔の教科書に載った肖像画】</p>  <p>昔の教科書には上の肖像画で源頼朝を紹介していた。しかし、1995年に別人説が発表された。</p> <p>【現在教科書に載っている像】</p>  <p>現在は下の木像が、最古の頼朝像であり、最も実像に近いのでは、とされている。</p>	<p>北条義時</p>  <p>北条政子（出家後の姿）</p> 	
	血筋や出身	桓武天皇の子孫である平氏の棟梁	清和天皇の子孫である源氏の棟梁	伊豆国の豪族
	政治をする上での役職	<p><small>だいじょう</small> 太政大臣（資料プリント⑨）</p> <p>：天皇の下で政治をまとめる最高位の大官</p>	<p><small>せいゐ</small> 征夷大將軍</p> <p>：天皇に任命された武家の棟梁</p>	<p><small>しゅげん</small> 執権</p> <p>：將軍の補佐役</p>
	政治の中心	平安京（京都）の朝廷	鎌倉（神奈川）の幕府	鎌倉（神奈川）の幕府
	行ったこと	<ul style="list-style-type: none"> 娘を天皇と結婚させ、天皇家と親族になり、平氏一族を朝廷の高い役職につかせた。 各地の権力者から荘園を寄進され、全国 66 国のうちの 30 国あまりを支配した。 <small>にっそうぼうえき</small> 日宋貿易を行い、宋からの輸入品を独占した。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国の国ごとに守護（警察）を置いた。 公領と荘園ごとに地頭（土地の管理者）を置いた。 →どちらも將軍に従う武士に役を任せた。 ・実際は、東日本の各地の武士団に従えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 都から連れてきた公家を將軍にして、その代わりとして政治を行った（執権政治）。 ・承久の乱に勝利した後、味方をしてくれた武士を、西日本の守護や地頭に任命した。

1. 家系図と平家物語の一部



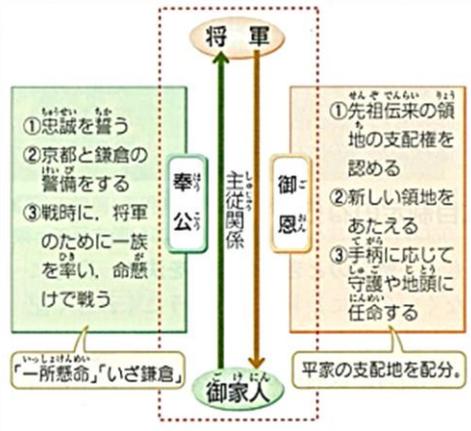
清盛公の一家の若君といえば、高い家柄の人でもその若君と向き合い、肩を並べられる人はいないほどであった。清盛公の奥方の弟の大納言平時忠卿は、「平氏にあらざれば人にあらざ」といわれたのである。

清盛公自身が栄華をきわめるのみならず、一門はみな繁栄した。公卿は16人、殿上人は30余人、諸国の国司などを務める者は60余人となった。…娘が8人いらっしやう。1人(徳子)は中宮におなりになった。皇子が生まれて皇太子となり、位についたので、中宮は建礼門院となった。

3. 政治の拠点「鎌倉」

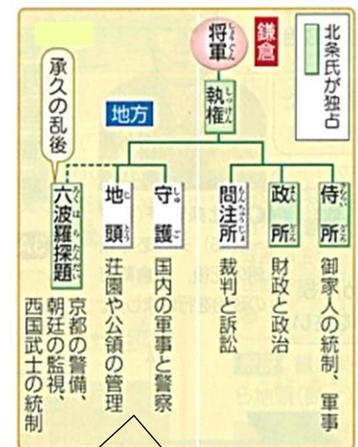


4. 封建制度

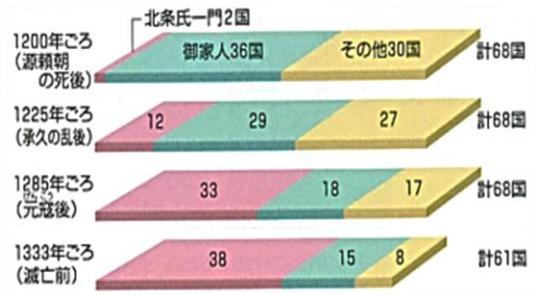


御家人：将軍に従う武士のこと

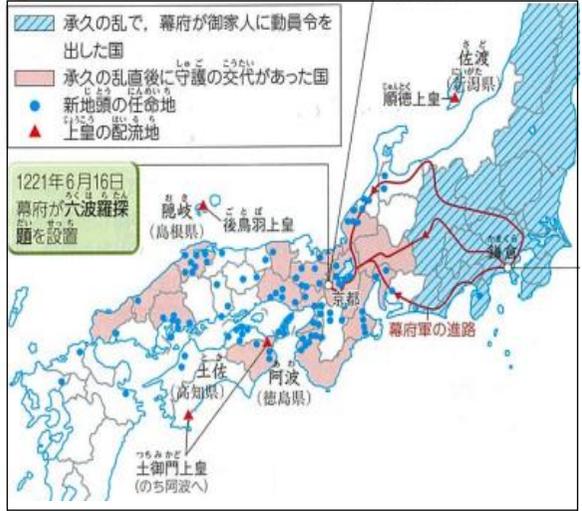
5. 鎌倉幕府の仕組み



6. 北条氏の領国

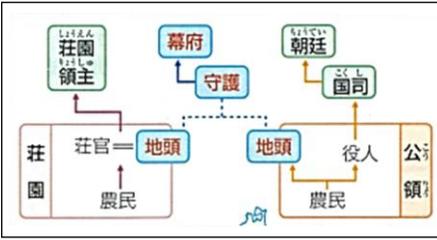
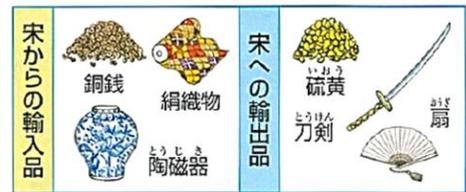


7. 承久の乱後の変化



幕府は、近畿から西日本にあった上皇側の公家や武士の土地、約3000か所を没収し、御恩として、御家人をその土地の地頭に任命した。

2. 日宋貿易



	地頭	守護
いつ	1185年に設置(頼朝が義経と対立した年)	
どこ	荘園・公領ごとに	国ごとに
だれ	源氏側の武士など	地頭のうちの1人
どうする	年貢を集め、領主に納める。治安を守る	御家人を指揮する。重罪をとりしめる

1. 封建制度と御家人の生活

将軍のためにする【奉公】

- ・ 京都や鎌倉の警備をする
- ・ 戦いが起こった時に、一族を率いて将軍のために戦う

将軍からいただく【御恩】

- ・ 今もっている土地の支配権を約束する
- + 活躍に応じて
- ・ 新しい土地を得られる
- ・ 守護や地頭に任命される

2. 御家人の収入



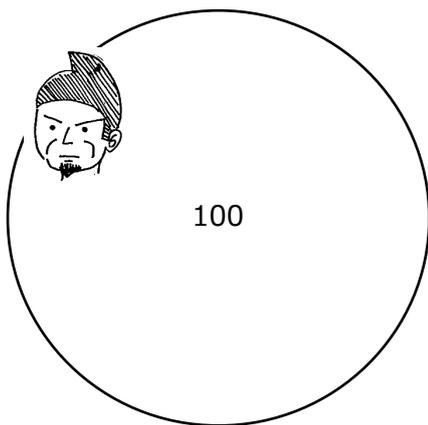
年貢
(収穫したものの一部)



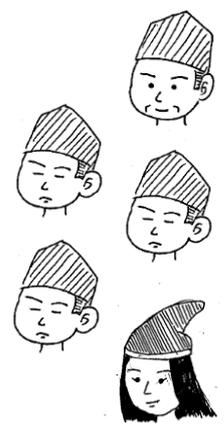
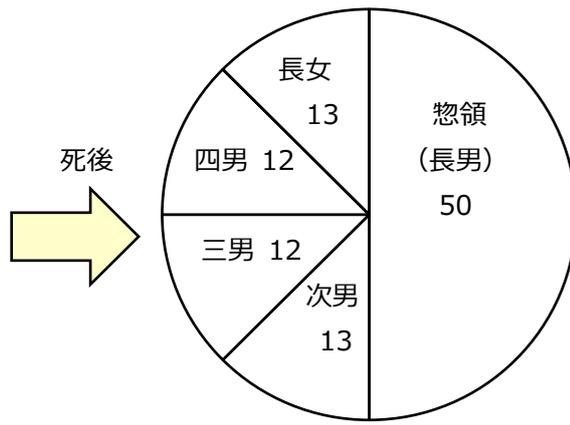
御家人は、荘園や公領の地頭に任命され、その土地を管理（支配）する権利を幕府から認められました。戦いのないときは、農作業をしたり、武芸のけいこをしたりしていました。その土地に住んでいる農民に、収穫したものの一部を年貢として納めさせました。御家人は、自分の支配する土地が広ければ広いほど、豊かになることができました。

3. 御家人の土地の相続（兄弟での**分割相続**）の例

【ある御家人の土地の広さ】



【子どもたちがもらえる土地の広さ】



地頭になったのは、だれ？

右は、源頼朝が地頭を任命するときに出した書状の冒頭です。だれが地頭になったのか、わかりますか？後ろから2行目に、「小山七郎朝光母堂」と書かれています。他の史料には、朝光の母には大きな功績があったため、1187年、地頭に任命されたと記されています。鎌倉時代の武家の女性は、土地を相続することもあり、女性の地頭は少なくありませんでした。

- 惣領**
：自分の子どもたちには、50の土地を分割して相続
次男や長女
：自分の子どもたちには、13の土地を分割して相続
三男や四男
：自分の子どもたちには、12の土地を分割して相続



院宣 (後鳥羽上皇からの命令)

鎌倉幕府が成立してからというもの、幕府の人たちは、朝廷や天皇の権威をおそれず、わがもの顔で振る舞っている。

特に、執権の北条義時は、源氏の将軍が亡くなった後、まるで鎌倉幕府の将軍であるかのように振る舞い、独裁政治をしている。

朝廷や天皇に対する態度は、実に許しがたい。

よって、全国の武士たちに命令である。

執権の北条義時を打ち倒すべし。

この命令に従った者は、ほうびを望むままに与えよう。

さあ、今すぐ、北条義時の首をもって参るがよい。



北条政子の訴え

みな心を一つにして聞きなさい。

これが最後の言葉です。

頼朝さんが平氏を倒し、幕府を開いて以来、高い役職や土地などをあなたたちに与え、その御恩は山よりも高く、海よりも深いものです。

その御恩に応える気持ちが浅くていいはずありません。

ところが今、朝廷から、執権の北条義時を討てという命令が下されました。

名誉を大事にする者は、上皇に味方する武士を倒し、幕府を守りなさい。

上皇に味方したい者は、今、申し出なさい。

処刑された5人の公家

葉室光親

周りからは心が清らかで、不誠実なことをしない人物として見られていた。承久の乱では、上皇の言葉をもとに院宣を執筆した。しかし、本人は、何度も上皇に戦いを避けるように進言していた。承久の乱の後、捕らえられ、山梨県で処刑された。

葉室宗行

父は平清盛の政権の下で役人を務めた。平氏が滅んだ後、父は亡くなり、本人は養子に出された。漢文などに精通しており、その能力を後鳥羽上皇に買われ、急に出世することになった。承久の乱の後、捕らえられ、菊川の宿で死をさと、御殿場のあたりで処刑された。

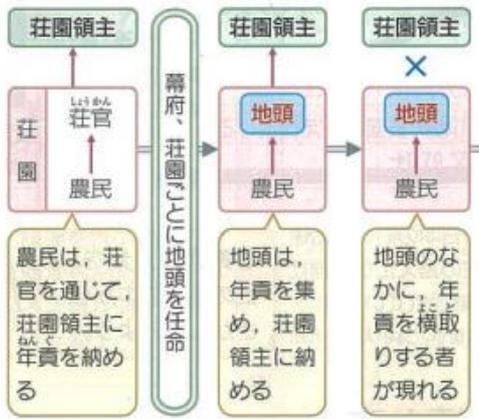
辞世の句 (死ぬ前に読む最期の歌) は「昔南陽県菊水 汲下流而延齡 今東海道菊河 宿西岸而失命 (昔、中国の南陽には菊水というものがあった。その下流の水を汲めば、寿命が延びるといふ。現在、我が国の東海道には菊川という場所がある。その西岸に泊まって命を失うことになろうとは…。)」



静岡県島田市菊川

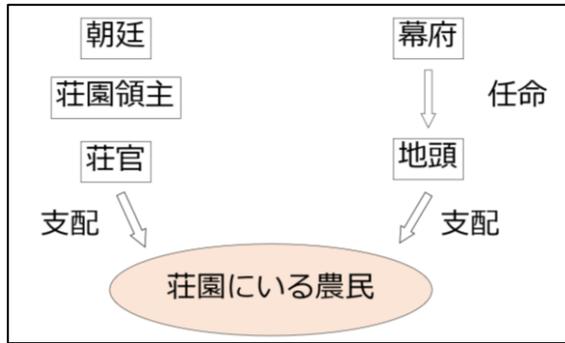
この他に、後鳥羽上皇側の中心となった公家に、一条信能、藤原範茂、源有雅がおり、処刑された。

1. 農民の支配



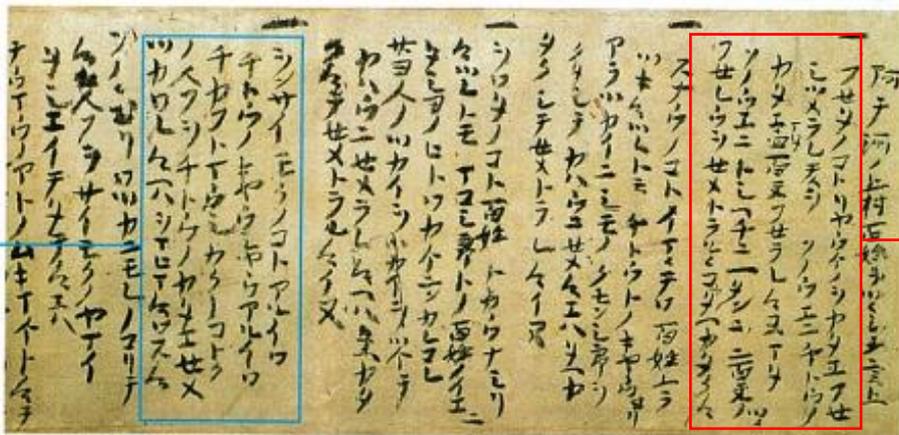
「資料プリント⑩」を見返し、古代と比較してみよう。

2. 農民の二重支配



3. 阿弓河荘の農民の訴え (荘園領主に対して)

領主に納める材木ですが、(地頭が奉公のため) 上京するとか近くで作業をするとかいっては村の男を責め使うので、(納める) 暇がありません



臥せ田(秘密の田)のことは領主様に支払っていましたが、その上に地頭の方に、また四百文とられました。またその上に、毎年一反につき二百文ずつの料を責めとられることは、耐え難いことです

(続き)
残った人が材木を切り出しに行くと、地頭は「逃亡した者の畑に麦をまけ」と言い、追い戻します
「麦をまかないなら、妻や子を牢に入れ、耳を切り、鼻をそぐなどして痛めつけるぞ」と責めるので、材木の納入はますますおくれま

紀伊国(和歌山県)の阿弓河荘(荘園の名前)は、京都のお寺のものだったが、ここに地頭が着任し、農民を支配した。1275年、農民たちは、かな文字を使って13か条の訴え状を書き、領主に送った。

4. 庶民の食事(復元)



- ① イワシの塩焼
- ② まぜごはん
- ③ 野菜の塩汁

5. 中世の島田の様子

(地図は資料プリント⑩「武士の生活」)

「播豆蔵の宿をすぎて大井川を渡る、この川は中に渡り多く、水またさかし、流を越え島を隔てて、瀬々、かたがたに分れたり…」
(初倉の宿を過ぎて、大井川を渡ろうとするが、この川にはいくつもの浅瀬があり、水の流が急で、川の流れは広く枝分かれている) 『海道記』(1223)

昔から大井川は水量や急流で、旅の難所とされていた。鎌倉時代初期は、堤防がまだできておらず、大井川が広く枝分かれていたことが、読み取れる。特に、大井川の東(島田)では、たびたび氾濫や洪水が起こっていたことが予想される。大井川の川上に向けて八幡宮を構えた村もあり、洪水が人々の生活に大きな影響を与えたことが分かる。島田駅の近くにある大井神社も、洪水を受けて、一度山間部に場所を移した歴史がある。

6. 農村の様子『大山寺縁起絵巻』



新しく登場した農法

- ・鉄製農具の使用
- ・牛馬耕
- ・灰やふん尿など、肥料の使用
- ・二毛作

二毛作の普及

諸国の百姓は、田の稲を刈り取ったあとに麦をまいて、田麦といっている。領主はこの麦にも課税しようとしているが、法に規定されていないので、してはならない。百姓の生活の糧にすべきである。以上、徹底するように、備後（広島県）、備前（岡山県）の御家人に申し伝える。

文永元年(1264年)4月26日

(『中世法制史料集』)

7. 米や麦以外の栽培



①藍(左)と紺屋(右) (『七十一番職人歌合』→p.70) 藍は日本では奈良時代に栽培されていたという記録があります。葉や茎を発酵させ、白でついで藍玉にし、それを煮ると青色の染料になりました。

8. 手工業の発達『春日権現験記』



農業ではなく、ものづくりをして生活する人たちも出てきた。絵は建築現場である。

9. 定期市と商業の発達『一遍上人絵伝』



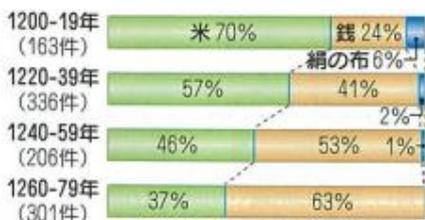
寺社の門前や交通の要所で開かれ、人々がつくった米やその他の作物、あるいは絹などの布、染料、農具などを持ち寄って売った。宋銭を使うことが増え、鎌倉時代後半には、ものを売って稼いだ銭で年貢を納める人もいた。

10. 中世の益津の様子

(地図は資料プリント②「武士の生活」)

藤枝市から焼津市にかけて広がる益津荘は、平安末期には、平氏の荘園だった。その後、執権になる前の北条時政が地頭を務めることになると、北条氏の支配が強まった。

鎌倉時代は、白河上皇が建てた円勝寺の荘園となる。荘園領主の円勝寺が、北条氏の地頭に、現地で年貢の徴取を任せた。つまり、領主と地頭で対立したり、農民を二重支配したりすることがなかったことが分かる。



これまでの仏教の宗派

- ・奈良時代の仏教（現代では一部のみ残っている）
- ・平安時代の**天台宗**（比叡山の延暦寺が総本山）、**真言宗**（高野山の金剛峯寺が総本山）

1 鎌倉時代の新しい宗派

念仏			題目	禅	
浄土宗	浄土真宗 (一向宗)	時宗	日蓮宗 (法華宗)	臨済宗	曹洞宗
					
法然	親鸞	一遍	日蓮	栄西	道元
1175～	1224～	1274～	1253～	1191～	1274～
極楽浄土に生まれ変わる、ただ南無阿弥陀仏という念仏を唱えるだけでよい。	自分を悪人だと自覚している人も、ひたすら念仏唱えれば、極楽浄土に生まれ変わる。	信じる心がなくても、念仏を唱えれば、すべての人が救われる。踊念仏で全国に普及しよう。	困難な時代を迎えたからこそ、南無妙法蓮華經という題目を唱え、今の人や国を救おう。	座禅を組みながら、師から与えられる質問に答える修行をで、悟りを開くことができ、救われる。	一人でひたすら座禅を組むという修行をすることで、悟りを開くことができ、救われる。
貴族 武士 民衆 に広がる	関東の武士 民衆 に広がる	各地の武士 民衆 に広がる	関東の武士 商工業者 に広がる	貴族 将軍 幕府の上級武士 に広がる	地方の武士 に広がる

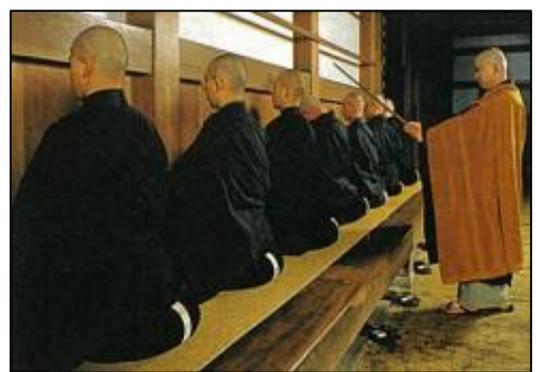
- ・個人の救済
- ・念仏あるいは題目を唱えれば救われる（他力本願）
- ・地方へと広がる

- ・個人の救済
- ・禅による修行をすれば救われる（自力本願）
- ・地方へと広がる

人々に教えを説く法然『法然上人絵図』



曹洞宗の禅の修行（福井県永平寺）



2. 戦乱や災害の年表

1156	保元の乱
1159	平治の乱
1180	源平の戦い(~85)
1181	養和のききん(~82)
1185	京都大地震
1214	京都大風雨 鎌倉洪水
1221	承久の乱
1230	全国でききん(~31)
1258	全国でききん(~59)

ききん（飢饉）とは

農作物が十分に育たず食べ物
が足りなくなり、人々が飢え
苦しむこと。

3. ききんの様子



4. 商工業者のつくった「座」の仕組み



5. 志太地区の荘園領主

(地図は資料プリント®「武士の生活」)

平安時代後半から中世にかけて、公家に並んで、広い荘園をもつ寺社が出てきた。寺の荘園の多くは、きしん寄進されたものであった。

島田市にあった「はつくらぞう初倉荘」は、院の勢力下にあった。1277年に、龜山上皇が京都のなんぼんじ南禅寺に寄進して、その後は南禅寺の荘園となった。

藤枝市にあった「はなしそづ葉梨荘」は、今川氏の勢力下にあった。1543年に、今川義元が藤枝市の清水寺に寄進し、その後は清水寺の荘園となった。

1. 元寇



【文永の役】

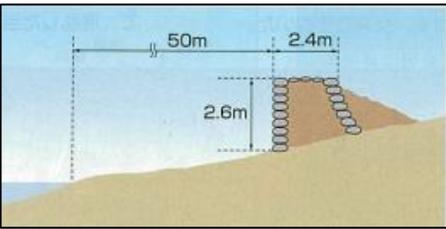


竹崎季長
味方の到着を待たず、元軍に突進し、活躍しようとした。

【防塁の建設】



幕府は、元軍の上陸を防ぐため、御家人に防塁をつくらせた。

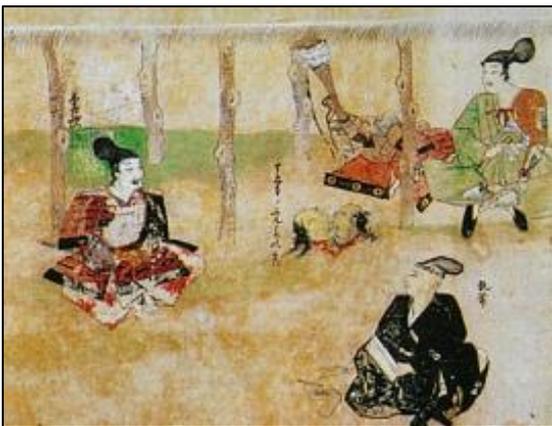


【弘安の役】



竹崎季長
再び博多に出陣。天草の御家人たちと共に元軍と戦う。

【戦場での報告】



竹崎季長は、元の兵2名の首をとり、守護と幕府の役人に報告した。

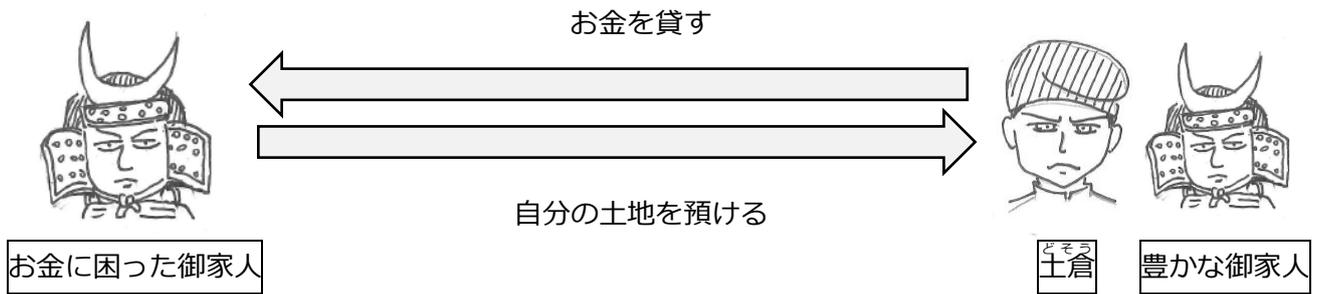
【前後の報告】



竹崎季長 (右) は、鎌倉に向かい、幕府の役人の安達康盛 (左) に、自らの手柄を説明した。2か月も粘ったという。

資料プリント⑳「武士の生活」を見返そう。
御家人はどんな目的、思いで幕府のために奉公したのだろう。

2. 生活に困った御家人

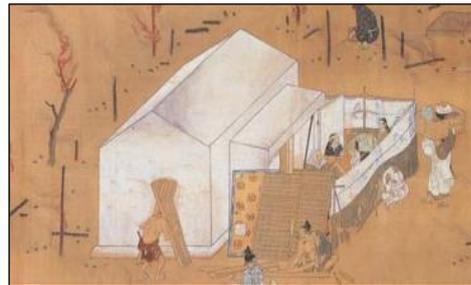


3. 幕府の対策

永仁の徳政令

- ・御家人から預かった土地や買い取った土地は、タダで返すこと。
- ・借金は帳消しにすること。
- ・幕府は金銭の訴訟を受け付けません。

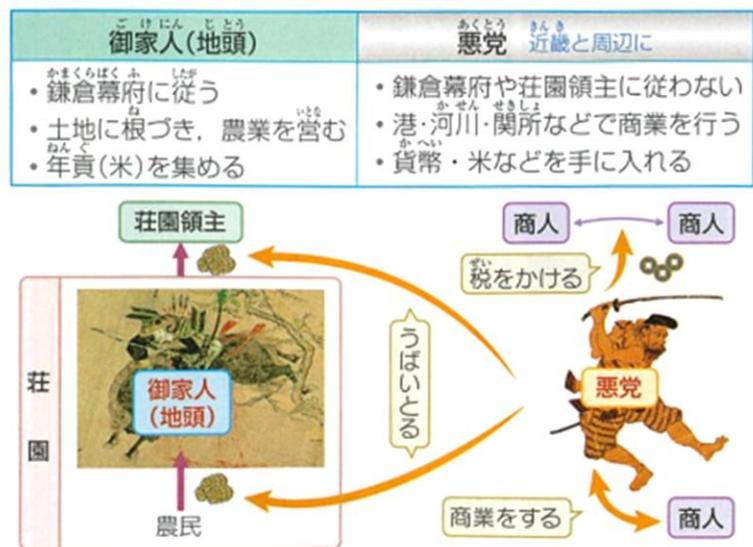
土地や物を預かり、代わりにお金を貸す、高利貸し業者。



お金に困った御家人を救ってあげよう。

北条貞時（時宗の息子）

4. 「悪党（御家人ではない武士）」の登場



1. 『梅松論』より … 後の歴史書

「保元・平治の乱、そして源平の合戦以降、武士が政治を左右するようになり、戦いが絶えない時代が続いたが、1333年になって天皇が主導する政治が復活したことはすばらしいことである。後醍醐天皇の政治は、武家は平穏にすごし、庶民は声をそろえてほめたたえている。天皇が諸国の国司や守護を任命され、公家が出世していくさまはめでたい限りである。」

「後醍醐天皇が始めた新しい政治のため、記録所を設置したものの、天皇の側近が勝手に不当なことを言うので、天皇の命令は朝に変わり夕方にはまた変わるというような状況で、人々の浮き沈みはめまぐるしい。また、天皇は北条方に味方した者以外の土地を守る約束をされたが、一方で土地を没収された者は天皇の政治に恨みをもつようになり、公家の中からも『足利尊氏も政治に参加してくれないかな』という声が聞こえるようになった。そもそも、長い間天皇が考えていたように、幕府を滅ぼしたことは、武家の政権を認めないというところにあった。しかしながら、足利直義（足利尊氏の弟）が関東の守り役として鎌倉にいたので、東国の者たちは直義に従って、京都に従おうとしない。結局、朝廷が天下を統一するという天皇の願いは実現不可能のように思えたので、武士の中で公家に不満を持っている人々は、源頼朝のように武士が天下を握ってほしいと思うようになり、落ち着かなくていった。公家と武士は、水と火のように互いに対立状態のまま、1333年も暮れていった。」

2. 『太平記』より … 後の歴史書

「1333年より、鎌倉幕府を倒すことに貢献した者たちの恩賞の評定を行おうと、洞院実世を責任者に定めた。諸国の武士はそれぞれに戦功の証拠をあげ、書状を携えて恩賞を望む者たちは何千何万ともなった。彼らの中で本当に功績のある者は、自らの戦功を信じているのでこびない。しかし、たいした功績のないものは、実権を握る天皇の側近たちにへつらい、功績を過大に評価させようとした。そのため、数ヶ月の間に22人の恩賞を渡したけども、「公正ではない」として天皇に取り消されてしまった。さらに天皇は、恩賞評定の責任者を方里小路藤房に代えられた。藤房は公正な恩賞評価をしようと、戦功の有無を調べ、その軽重を判断し、恩賞を与えようとしたが、恩賞を求める者の中には、天皇の側近に近づき、裏から内密に文書を出してもらい、恩賞にありつこうとする者も後を絶たず、結果、つい先日まで敵だった者も恩賞をもらうことになり、さらに、戦功ない者も新しい土地をもらった。責任者の藤房は、病を理由に責任者の職を辞めてしまった。この他、北条氏やその家臣の一族から没収した土地を、これという功績もない芸能者、宮中に使える女官や僧にまで与えたので、今や功績のある武士たちに与えられる土地は全国に少しも残ってはいない。」

3. 『二条河原落書』より … 京都の河原に建てられた落書き板、京都の一般民衆の視点

「最近、都で流行しているのは、夜盗、強盗、偽物の天皇の命令、裁判に呼ばれる者、急を知らせる使者、根拠のない騒ぎ、生首、一般人に戻る僧、勝手に出家する者である。急に金持ちになったものがあるかと思えば、時代に乗遅れたものも多い。恩賞だと言って無意味な合戦を始めたりする者もいる。土地を失った者、無効になった証文を持って訴訟を起こそうとする者、偉い人にごまをする者、人の足を引っばる者などが暗躍する。目上の者を押しのける風潮である下克上の風潮も強く、能力の有る無しに関わらず、後醍醐天皇は気に入った者に地位を与えたため、様々な人物が好きに役人になっている。身分の低い者が貴族となって立派な服を着ても似合わないし、笏を持ってもしっかりしないのに、朝廷に出入りし、なんとも奇妙な光景となっている。」

A 義満の立場と政治の中心

1. 義満の生涯

1358	足利義満、生まれる
1368	3代将軍となる 武家の最高位
1378	京都の室町に幕府を移す
1392	南北朝を統一する
1394	将軍を子の義持にゆずり、 太政大臣となる 公家の最高位
1395	出家する(政治は続ける) 仏教界も支配
1398	金閣に移る



2. 花の御所



将軍の邸宅(洛中洛外因屏風 16世紀) 木・名花を集めてかざったことから「花の御所」とよばれました。左側(南に当たる)には庭園が広がっています。塀の前には供の者たちが座って、主人を待っています。花の御所には武士だけでなく貴族も訪れ、中には義満に仕える貴族もいました。



元は寺社や民衆の芸能だった「能」。義満は観阿弥・世阿弥親子の能を高く評価し、保護した。その後、世阿弥の活躍により、能は公家でも重視される文化となった。

3. 文化の融合・保護



武家らしい禅の様式と、公家らしい寝殿造を合わせてつくられた建物。

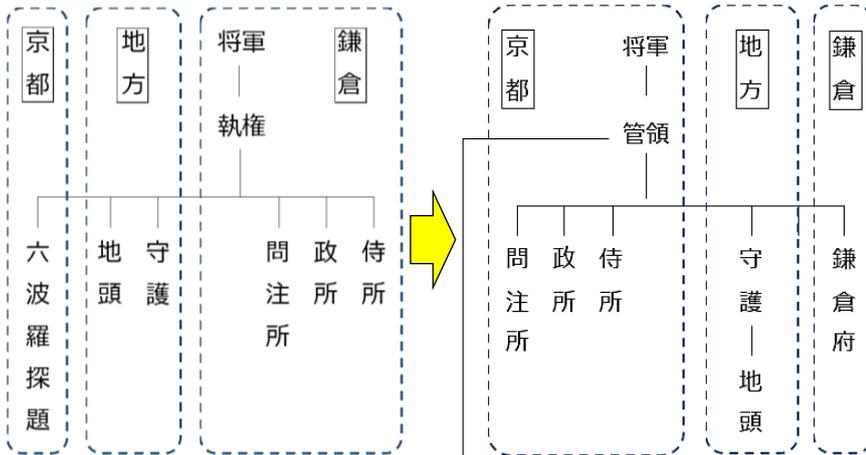


B 室町幕府の仕組み

1. 比較

【鎌倉幕府】

【室町幕府】



変わったところを挙げてみよう。

室町幕府の「管領」は、細川氏・斯波氏・畠山氏の3氏が、交代で担当した。

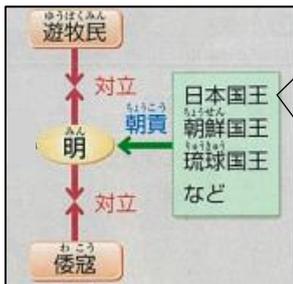
2. 地方の支配

鎌倉時代	室町時代
朝廷が国司を任命(政治) 幕府が守護を任命(軍事)	守護は、荘園の年貢の半分を取る権利を得たり、国司の権限を吸収したりして力を強める→守護大名へと成長
<ul style="list-style-type: none"> ●国内は守護の領地ではない ●国内の武士は守護の家来でない 	<ul style="list-style-type: none"> ●国内は守護の領地 ●国内の武士は守護の家来

- 管領 ... 将軍の補佐
- 侍所 ... 武士を統率し、軍事や警察を扱う
- 政所 ... 一般的な政務や財政を行う
- 簡注所 ... 御家人同士の争いに対する裁判を行う
- 守護 ... 国ごとに置かれた警察役
- 地頭 ... 公領・荘園ごとに置かれた土地の管理役
- 鎌倉府 ... 鎌倉や関東・東北の監視

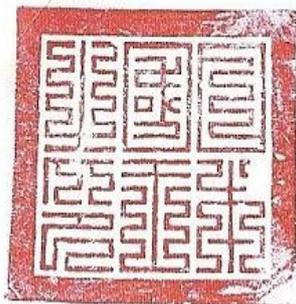
C 義満の称号

1. 明と東アジア世界



明は、明中心の国際関係をつくり上げようとしてきました。通行や貿易は、明の皇帝に朝貢して、国王と認められた者のみが行えるようにしました。

足利義満が「明」から授かった印

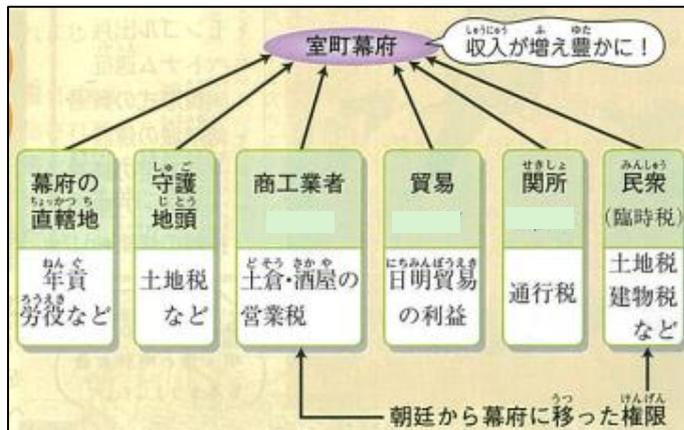


之 国 日
印 王 本

2. 国内の様子

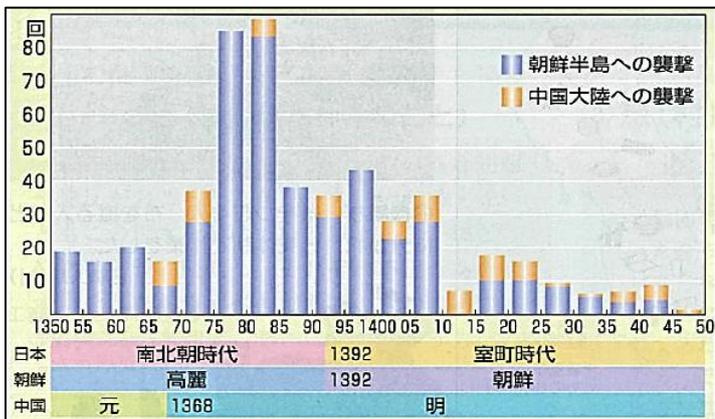
室町幕府が国内を支配することになったが、南朝側についた勢力は、戦いに負けて幕府の下につくことになった。中には幕府への反乱を狙う残党もいた。それ以外にも、公家や寺社、新しく力をつけ始めた守護大名や商工業者などが、大きな勢力であった。

3. 室町幕府の財源

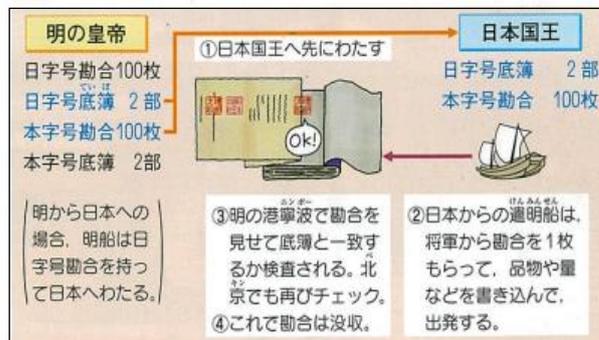


D 室町幕府の貿易

1. 倭寇の活動



2. 勘合貿易



目的 日本国王(室町幕府将軍)の正式な貿易船のみに勘合をもたせ、倭寇と区別すること。
結果 貿易は明の皇帝からの贈り物などで大きな利益があり、室町幕府の財源の1つとなりました。



3. 貿易品と利益



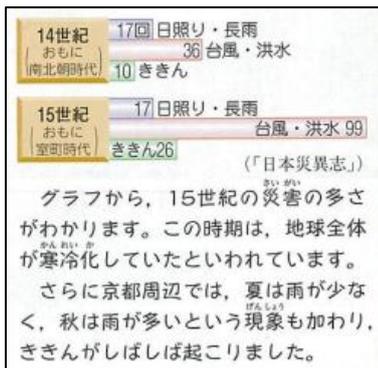
堺商人の貿易収支(1476年)

経費	船の借賃・水夫への賃金・食料・燃料	…約1800貫文
積荷代(輸出品)		…約1万貫文
収入	明から持ち帰る積荷代(輸入品)	…約4万貫文
	幕府に納める税	…約4000貫文
	純益	2万4200貫文

注) 1貫文は現在の10~20万円相当。(佐々木銀彌「日本の歴史13」)

中世後期の民衆

1. 中世後期の自然環境



2. 農業の改良



④ 投げつるべ(左)と電骨車(右) (「たはらかさね耕作絵巻」) 投げつるべは、縄をつけた桶を2人でふりあげて、電骨車は、板を連結した水送り装置を箱の中に取りつけ、足で軸を回転させて、田畑に水を入れました。



⑤ 水車(揚水水車) (「石山寺縁起絵巻」) 水流で水車を回し、水車につけた容器で水をくみあげ、田畑に水を入れました。



⑥ 肥料をほどこすようす (洛中洛外図屏風) 桶に入った下肥(人糞尿)を、ひしゃくで田にまくようすです。

3. 村で協力して行う農業



惣 = 自治的な組織	
いつ	室町時代
どこ	近畿や周辺の荘園・公領
だれ	農民、地元の武士(地侍)
どうする	<ul style="list-style-type: none"> ● 会議を開いて話し合う(寄合) ● 村のおきてを定める(自治) ● 共同で年貢を集め、領主に納める(村請)

村では、農業以外にも、毎年の祭りを共同で行っていた。神輿の行列の他に、猿楽や相撲、おどりなどを、村の人々で協力して行っていた。

4. 自分たちで決めた「おきて」

近江国, 山中惣のおきて

- 一、他国他郡から当郡へ乱入する者があったならば、団結して防ぎ、裏切ってはならない。
- 一、郡内のもので、他国他郡の人を引き入れてあとをつがせようとする者があったら、それが親子兄弟であっても、惣と心をひとつにして処罰すること。
- 一、このほか、惣のためのことは、多数決で決めること。 (「山中文書」)

近江国, 今堀惣のおきて

- 一、惣の森で、かってに木を切ったり葉をかき集めたりした者は、村人ならば村の寄合からはずし、村人でない者は村から追い出すこと。
 - 一、犬を飼ってはならないこと。(※)
 - 一、家を売った人は、百文について三文、一貫文につき三十文ずつ惣へ納める。これにそむいた村人は、宮座から抜くこと。 (「今堀日吉神社文書」)
- ※日吉神社の神の使いは猿。犬猿の仲による。

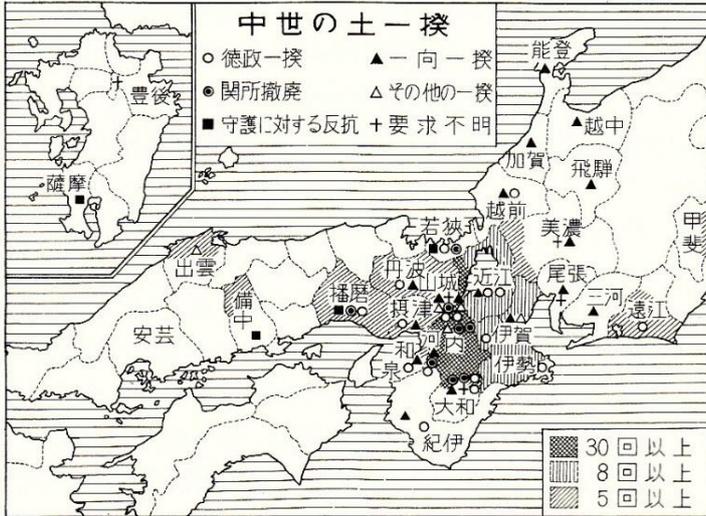
5. 村同士のなわばり争い

戦場に近しい村は普段から武装しており、よそ者が村の範囲に侵入してきたら、現場で相手を捕まえ、刀や鎌などを取り上げ、ときには身ぐるみはぎとってしまうという実力行使が見られた。

遠江国では、自分の村の山の木を伐採されたとして、その相手を捕まえた。大名の今川氏は、村人の行為は正しいと認めた。

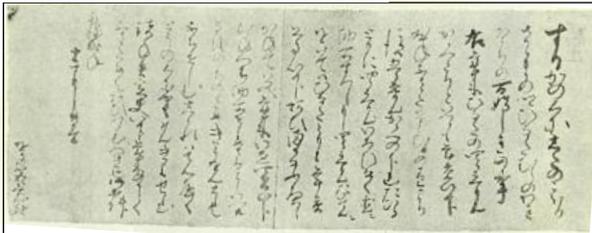
駿河国でも、富士郡の久遠寺が「山を勝手に切り取った者は、鎌・斧を取るべきなり」と定めていた。

6. 一揆



駿河国では、今川氏に代わって支配者になった武田氏に対して、安倍郡や志太郡稲葉郷で、民衆の一揆が起こった。武田氏と対立する武士と手を組んで行われた記録がある。

7. 寿桂尼の文書



駿河国 志太郡 笹間郷 日向村 河内の百姓の事
日向の四郎右衛門の年貢だが、ここ数年は無沙汰している
(納めていない) ため、今後は五郎右衛門がその分を納めるように。…略…
永禄2年(1559年) 岡埜谷五郎右衛門へ

4代に渡って今川氏の政治を支えた。上の文書から、当時、島田でも百姓の年貢の未納があったことが分かる。

9. 乱取り



戦場に近しい村や、負けた側の村などで、武士や足軽などの乱取り(略奪行為)が行われた記録が残っている。戦いに貢献したとして、この行為を認める大名が多かった。物だけでなく、人さらいも起こり、奴隷として売買された。駿河国の富士のふもとには、人身売買を行っていた市があった。

正長の土一揆 1428(正長元)年

9月、天下の土民たち(農民たち)がいっせいに蜂起して、徳政といって酒屋・土倉・寺院など(高利貸しを兼ねていた)を破壊し、質に入っている品物を勝手に取りだし、借金の証文もみな破って捨てた。…日本始まって以来、土民がいっせいに蜂起したのはこれが初めてだ。(『大乗院日記目録』)

解説 1428年のききんのとき、高利貸し(酒屋・土倉など)が米を買ひ占めて、馬借の仕事が減りました。これに反発した大津や坂本(滋賀県)の馬借が高利貸しをおそい、借金の証文をうばいました。この一揆の成果を刻んだ碑文が見つかっています。

山城国一揆 1485~93年

地元の武士(国人)・農民らによる決議

- ① 今後はいずれの畠山軍も、山城国に入つて来てはいけない。
 - ② 畠山らが横取りした荘園は、すべて元の荘園領主に返す。
 - ③ 畠山らが新たに關所をつくつて税を取つてはならない。
- (『大乗院寺社雜事記』)

解説 山城国(京都府)の武士や農民たちは、応仁の乱から続く守護大名の畠山一族の争いに反発し、畠山軍の退去を要求しました。団結した武士や農民たちは平等院で集会を開き、自治のおきてを定め、8年間にわたって山城国を治めました。

加賀の一向一揆 1488~1580年

1488年6月、一揆衆20万人が加賀(石川県)の守護富樫氏の城を取りまき、攻め落とした。守護側の者はみな自殺した。一揆衆は名ばかりの守護を立てた。…百姓が立てた守護だから、百姓の勢いが強くなって、最近では、「百姓の持ちたる国」のようになった。(『藤原軒日録』「実備記拾遺」)

解説 近畿や中部地方では、浄土真宗(一向宗)の信者たちが団結し、守護大名に対抗しました。北陸の加賀(石川県)では20万人が一揆を起こし、守護の富樫氏をたおしました。その後、織田信長に降伏するまでの100年間、地元の武士・僧侶・農民らによる自治が行われ、「百姓の持ちたる国」とよばれました。

8. 足軽



戦国時代になると、集団戦が一般的になった。戦国大名は、普段は雑用を行わせ、戦時は相手を混乱させる足軽という部隊をつくった。多くは、農民から募られた。槍や弓、鉄砲を支給され、訓練を受け、戦場では最前線に配備されることも多かった。能力や活躍によっては、足軽大将やそれ以上の武士の身分に昇進することもあった。